（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	オルオルアドバンスすえひろ			
○保護者評価実施期間	2026年　7月　25日	～	2026年　8月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	39	（回答者数）	26
○従業者評価実施期間	2026年　7月　25日	～	2026年　8月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　9月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高学年及び思春期に対応した支援を行っている。	・個別支援プログラムとして学習プログラム、パソコンプログラム、個別の面談対応を行っている。 ・グループ活動として、ＳＳＴプログラム、活動にグループ行動を多く取り入れグループの中での役割の経験が出来るようにしている。 ・社会体験活動として、外部施設への訪問・体験、社会参加の機会を提供している。	・思春期特有の心理的なニーズに対応するための支援スキルを職員に育成していきます。 ・思春期児童の特性に応じたプログラムの開発や見直しは常に進めて行く必要があり、個々のコミュニケーション能力や自己管理能力の向上を図っていきます。
2	日替わりプログラムを行っている。	・毎日利用しても飽きがこないよう、日替わりプログラム（月：ダンス、火：学習、水：アナログゲーム、木：パソコン、金：アート、土：ＳＳＴ・各種イベント）を実施している。 ・どのプログラムも先行的にベーシックルールを伝え、不適応行動に対してはルールの確認、適応行動に対しては承認をすることを職員の対応として徹底しています。	・現在進行形で行っているが、各プログラムに目標や目的意識が持てるよう、発表・検定・成果・振り返り等の自発的な意欲にアプローチした工夫を継続していきます。 ・集団活動であっても、常に個別の進捗状況を確認し、意欲の低下が起こらないよう丁寧にケアしていきます。 ・各プログラムにおいて振り返りをチームで行い、現場の気付きや新たなアイデアを柔軟に取り入れ、児童の興味関心に寄り添ったニーズに答えられる内容を提供できるよう努めていきます。
3	将来へ向けての自立支援に力を入れている。	・できる事を増やしていく見通しを持った支援をする為に、保護者様との連携を大切にしている。 ・自主での利用を目指してもらう、時間や持ち物を自己管理できるようになる、利用のための準備を自分でやる、失敗する経験を積むなど、自立へ向けての取り組みを自発的にできるよう言葉がけが多すぎず、また適切な距離感をたもちながら支援しています。	・自立へ向けてのイメージ・気付き・意識が高まるよう、経験や体験の機会の提供の充実を進めて行きます。 ・職員のスキルの向上のための研修の実施に努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・思春期対応ができる職員の育成。	・職員の経験不足 ・年齢特性への理解不足: 高学年特有の心理的・社会的特性に対する理解が不足している場合、適切な支援が難しくなる。 ・スキルの多様性: 高学年のニーズに合わせた多様なアプローチが必要だが、スタッフのスキルや経験が不足していることが影響する。	・様々な研修への参加。 ・職員のメンタルヘルスへの取り組み。 ・日々の現場での経験を積み、チーム間で共有しチームとしてのスキルの向上に取り組む。
2	・ご本人主体での利用となる為、当日のキャンセルがある。	・自主での来所児童は、自己選択で利用を決定することがあるので、利用することの意義や、目標設定、信頼関係、安心できる環境設定を整える必要がある。 ・当日のキャンセルでは、キャンセル待ちとして支援を必要としている児童のニーズに対応できない。	・自立支援としては自主利用は継続して進める必要がある。 ・学校や自宅からの自主利用の練習のサポートをできる体制作り。
3	・多種多様な職員を揃える。	・様々な支援に対応するために、老若男女、多種多様な職員が配置できることが理想。 ・現在の在籍児童の８割が男児であり、着替えの対応や遊びの対応において男性職員へのニーズが高い中、時には男性職員の配置がかなわない日もあり、できる支援が制約されてしまうことがある。	・職場環境を整え求人を進める。 ・チーム形成に力を入れ、やりがいを感じながら働ける職場を目指し、離職率の軽減に繋げる。